

今回は介護安全について考えてみます。

私たちが介護業務(広義の介護業務、他職種協働の当館の介護全般を指す)のプロとして仕事をさせて頂く上でどうしても第1に忘れてはならないものとして、「**利用者の尊厳**」とともに「**介護安全**」があります。

介護業務は不確実性の塊のようなものです。

動けば転倒するリスクはあるし、転倒すれば骨折のリスクは伴います。そうかといって、動かさなければ廃用性萎縮に手を貸すことになります。食べなければ栄養状態は悪くなりますが、無理に食べさせれば誤嚥や嘔吐で逆効果です。介護業務自体がリスクと背中合わせなのです。高齢者の体は脆くなっていますので、見方を変えればリスクのかたまり、私達はそんな中で仕事をしています。

私達は相反する効果を同時に期待されて仕事をしているので、一定程度を越えるリスクは不可抗力になります。そして生じたリスクは最小限にする努力が求められます。許容範囲のリスクを見極めながら仕事をする必要があります。

これらが**私達が仕事をするうえで萎縮してはならない所以**です。

そして、リスクをなるべく小さくするためには横のチームプレイが必須です。1人が2人になればリスクは半分ではなく $1/10 \times 1/10 =$ 百分の1になります。三人になれば千分の1に減らせます。アイデアも同じ相加効果でなく相乗効果、三人寄れば文殊の知恵です。しかも私達職場の特徴である他職種協働チームになれば更にリスクは小さくなります。

チームプレイとは **ホウ・レン・ソウ**(報告・連絡・相談)を互いに躊躇なく徹底することです。言い換えれば、

- ①お互いに助け合うこと、
- ②自分の意見をはっきり言うこと、
- ③相手の意見をしっかり聞くこと、

です。そしてもし何か事が起きてしまったら**事後対応は迷わず迅速**にすることです。

これがリスクから介護事故を未然に防ぎ、起きても介護事故につながらない介護安全となります。

当一羊館では状況報告書(インシデントレポートやヒヤリハット報告などとも言います)は積極的に書けていると思います。しかも迅速に対応できている方だと思います。そしてその迅速性と素直さが事故防止に役立っているのです。